

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171300599		
法人名	株式会社アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16-1-1 (電話) 0574-78-2535		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年4月26日	評価確定日	平成19年6月11日

## 【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業者記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.65人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有 ( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.3 歳	最低 77 歳	最高	97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東白川村国民健康保険病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

村所有の一戸建て平屋住宅を賃借したホームの裏には春になると山つつじが咲く山があり、前(南面)に道路をはさんで白川が流れ、周辺の環境は山紫水明の地であり、水も空気も陽あたりもよい。若い施設長と子育てが終わった職員を中心に、夜間は1時間毎の見回り、毎月のカロリー計算等もなされている。開設4年間で5名の看取りがなされた事実は、管理者はじめ職員の努力のあらわれである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念はよく実践されており、ケアサービスについてはフェイスシート以下更新中である。快適な生活空間づくりの改善点であった生活臭対策や職員の研修の取り組みは継続課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	地域との付き合い、村との連携、地域包括支援センターとの協働等の対外活動の重要性や、運営理念の対外的PRの必要性を認識されている。自己評価・外部評価は全職員で話し合い、必要な改善は既に取り組みされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では悩み事などを相談し解決につなげようとしている。ボランティア募集を村営ケーブルテレビで呼びかける事、地域で行われている『五感体操』をホームでもできる様ボランティアが出前で来る事、などが会議で提案されそして実現している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者及び家族の意向が最大限尊重され、心温まる対応が静かに行われている。不安への対応も充分なされている。苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議中心に地域との連携を深めようとしている。毎週木曜日にはボランティア2人が草取りなどに作業され、地域の人達の見守りを受けながら入居者の状況によっては単独での散歩も行われている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お互いに支えあいながら楽しく生活する」「家庭的な雰囲気自分らしく生活する」の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用者・職員・外来者みんなが見えるように玄関ホールに大書・掲示してあり、利用者のみならず職員も個性豊かに楽しげで理念の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の防災訓練に参加し、又毎週木曜日には地域のボランティア2人による家の周りの草取りなどの奉仕活動がなされている。地域で行われている『五感体操』がボランティアによってホームで出張開催されている。		より積極的に地域に係わるため自治会などにも加入を検討している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を、ホームのサービス向上のために積極的に取り入れ、職員全員が取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には行政・民生委員・家族などが出席し、主としてホームの悩み事や問題解決のためのテーマが話し合われており、サービスの質的向上を図る前向きな姿勢が伺える。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの建物は村有施設の賃借でもあり経営者は行政とのつながりがもたれているが、管理者・職員は運営推進会議でのかかわり程度となっておりその範囲をもっと広く深めようとする問題意識をもっている。		ホーム側から提案し、認知症についての勉強会開催等の活動などを通してかかわりを深めることも有意義と思われる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対する介護情報や金銭管理情報の提供は小まめにされている。	○	家族に伝えたこと、家族から聞いたこと、そしてその後の対応などを、簡潔・適切に記録されるとなお良い。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者、苦情解決責任者が決められ、外部苦情窓口を紹介するポスターに固有名詞でそれが明記され、玄関ホールに掲示されている。家族は隔月開催の運営推進会議でも発言することが出来る。		苦情らしきものは今はないが、苦情受付記録簿的なものを上記項目の記録簿などと合わせて勘案し整備されておくと、なお良い。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域の子育てが終わった女性職員が多く、若い管理者のもと明るく自由闊達な雰囲気であり、離職異動は少ない。職員の雇用形態の改善もあり年1回の健康診断が行われている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はあり、外部で開催されるものについては職員の自主判断によって参加が決められ、金銭的にも自己負担のものが中心となっている。雇用形態の改善がなされている。	○	職員の研修計画やそれに関する職員の負担について、経営側のなお一層の配慮が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村で唯一のホームであり同業者はないが、地域の病院とは交流や指導を仰ぎ、サービスの質的向上を図っている。経営者が同法人経営の他施設との情報交換のパイプ役となっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人に見学や体験入居をしてもらい本人の納得が得られてからの入居となっている。介護度の程度にバラつきがあり男性が多い入居者構成となっているが、気楽な雰囲気である。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のような気取りのない明るい雰囲気である。介護度の高い人に対する入居者の温かいいたわりの目が感じられる。入居者の手によるホームの畑で収穫された野菜や採取された山菜が食卓を賑やかにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時や入居後の本人意向は把握されており、本人の希望が尊重されている。夜間には1時間毎に見回り・記録がされている。日中の外出も本人・家族の希望もあり入居者によっては単独で散歩など行われている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>施設長がケアマネジャーを兼務しており、全職員の話し合いを通して作られている。</p>		<p>フェイスシート等を新様式に書き換え作業中であるが、入居者の入居後の生活の中で気づいた事柄のうち必要なものは追補されると良い。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は見直し期間中に見直しされている。状況の変化によっては随時見直しされている。</p>		<p>ケアマネジャー交代を機に介護計画等の書類関係も更に向上すべく見直し作業中である。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の臨時宿泊は居室又は居間が使用されている。夜勤者は1時間毎に見回りし記録されている。病院入院時には職員による緊急応援や家族と医療機関をつなぐ相談窓口として機能している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診希望の場合は継続受診の支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設4年1ユニットのホームながら、家族の事情や希望により協力病院の指導協力を得て既に5名の『看とり』が行われている。当初は准看護師職員中心の態勢であったが、その後は施設長以下介護職員が自らの意志で、他の入居者と共に静かに厳粛に対応されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守り、情報・記録の守秘・取扱にもよく注意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由闊達な雰囲気、十分配慮されながらも単独での散歩外出など行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・下膳は入居者の状況に応じたもので、全員揃っての食事をはじめ食事中は話が飛び交い、食後は全員のコーラスが毎度行われている。入居者が採取した山菜も小皿に盛られ全員がいただいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は曜日により予め決まってはいるが、特に希望があればその都度対応している。夏に畑仕事などで汗をかいたときはシャワーを浴びることも出来る。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状況により畑仕事、山菜採取、散歩、掃除など多彩である。入居者のうち男性が5名と過半数を占めその分活動的である。食後の1曲をはじめ、折に触れよく歌が歌われる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	単独の外出が出来る人、介助が要る人など外出はほとんど希望通りである。温泉・テーマパーク・お祭りなどの遠出には家族の応援を得て一緒外出が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵は掛けられていない。所在が把握されている入居者によっては単独で自由に散歩や山菜採取に出かける姿が見られた。居室も和室・洋室ドアにも鍵はない（入居者自身の希望で内側に付けた居室1あり）。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練には参加している。近隣の休耕田が適当な避難場所であるが、避難体制・連絡表は玄関ホールに掲示してある。避難訓練も検討中である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取やバイタルチェックが行われ記録されている。献立は当日の担当職員が入居者の希望と手持食材を見て作られているが、その献立記録によりパソコンを使用してカロリー計算を毎月行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・食堂・居間などはかなり余裕がある。廊下・トイレなども車椅子生活者用にもともと設計されており不自由はない。		玄関・廊下などで若干生活臭が感じられる。元々が通常民家として建てられているので、合併浄化槽の能力不足などを専門業者に点検してもらおうとよい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風建物ながら内部は洋間が多く、プライバシーによく配慮されている。持込み家具もあり、それぞれ自分好みの部屋になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。